

サマータイム制度導入による省エネ効果試算結果

「地球温暖化対策推進大綱」におけるサマータイム導入による二酸化炭素削減効果
25～123万トンCO₂

サマータイム制度導入による省エネ効果試算結果（（財）社会経済生産性本部）
（短期直接効果）

	原油換算(万kl)			
	平成5年	平成10年	今回(平成15年)	
	試算結果	試算結果	試算結果	
家庭用照明需要	32.7	40.3	47.5	
家庭用冷房需要	1.3	2.8	6.2	
業務用冷房需要	4.1	8.1	8.3	
業務用ガス冷房需要	0.3	1.4	3.3	
北海道・東北地方の暖房需要	-	2.2	2.3	
業務用 照明需要	自動車教習所	0.9	1.5	1.7
	ゴルフ練習場	1.4	2.6	1.6
	ガソリンスタンド	12.8	15.6	14.3
	公共用ナイター	2.3	3.8	4.2
	プロ野球場	-	0.1	0.1
	広告用ネオン照明	-	2.0	1.5
	広告看板照明	-	0.7	0.5
	その他	-	2.8	4.2
自動車照明需要	2.0	8.5	10.0	
(小計)	55.2	86.8	93.4	
CO ₂ 削減効果(万トンCO ₂)	未算定	132.0	147.3	

備考) 1.平成 10 年度の試算では、サマータイム導入に伴う余暇需要拡大の影響分について、増エネルギー分として 36.8 万 KL、これによる二酸化炭素排出量増加分として、94 万トン CO₂を見込んでいる。

2.二酸化炭素削減効果は、削減効果の対象別のエネルギー種別省エネルギー効果に、政令(「地球温暖化対策の推進に関する法律施行令第三条(平成 14 年 12 月 19 日一部改正)」)で定めるエネルギー種別二酸化炭素排出係数を乗じて試算した。